

# 会員の活動報告と有明海知っ得情報

## ■荒牧軍治副理事長(正会員:佐賀大学教授)『環境保全功労者』受賞!

環境保全の推進に功績があった人を国が表彰する「環境保全功労者」に荒牧軍治副理事長が選ばれました。

環境省に設置された有明海・八代海総合調査評価委員会の委員長代理を務め有明海再生のための提言を行ったこと、NPO法人有明海ぐるりんネットの理事長及びNPO法人有明海再生機構の副理事長として大学や行政機関、民間企業とのネットワーク構築に貢献したことなどが評価されての受賞です。



## ■大和田紘一副理事長(正会員:熊本県立大学教授)

### 『不知火海・球磨川流域圏学会』設立!

昨年10月、「不知火海・球磨川流域圏学会」を地域の方々で設立され、その初代会長として活躍されています。

この学会は、八代海の森・川・海のつながりを流域圏としてとらえ、市民と研究者とがさまざまな研究や情報を共有することにより、この水域の環境保全や持続的な利用を図ること、さらには、それぞれの地域で生まれ、継承されてきた文化や文化遺産を共有していくといった人文・社会学的な取組みまで行われているユニークな学会です。



記念すべき学会誌第1号を発刊(2007年3月)

### 有明海(7~9月)旬のお魚( )内はおいしい食べ方



▲スズキ(刺身、塩焼、吸物)



▲コイチ(刺身、塩焼、唐揚げ)



▲ムツゴロウ(蒲焼、素焼)



▲クチゾコ(煮付、唐揚げ)



▲シャコ(塩ゆで、煮付)



▲シバエビ(マエビ)  
(塩こしょう炒め、チリソース炒め)

## 有明海の目より(知っ得)情報をお寄せください!

有明海及び当機構をもっと身近に感じていただくよう、会員の方の地域での活動、研究報告、有明海に関するイベント、文化、いい伝えなど『有明海知っ得情報』などをお知らせしていきます。

**編集後記**  
おかげさまで当機構も6月で3年目を迎えました。設立以来、これまで多くの方々に御支援・御協力を賜り心から感謝申し上げます。今後も有明海再生への志を同じくするさまざまな方々と連携を図りながら、調査研究等を行っていきたく思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

**発行**  
NPO法人 有明海再生機構事務局  
〒840-0833 佐賀市中の小路4-30高取ビル302号  
TEL(FAX兼用) 0952-26-7050  
メールアドレス: npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp  
ホームページアドレス: http://www.npo-ariake.jp/



## 有明海講座 開催のお知らせ

昨年、皆様に好評をいただいた『有明海講座』の平成19年度の実施計画をお知らせします。

今回は19年9月から20年2月まで、計6回の講座実施を予定しています。

講演テーマは、有明海に飛来する野鳥の話を始め、有明海に注ぎ込む河川の中でも最も大きな筑後川の話、有明海の食文化など、バラエティにとんだ内容を準備しております。

9月の講演会では実際に有明海で野鳥観察をしていただくなど、楽しい企画も用意しています。

有明海講座の参加申込については、再生機構のホームページなどで募集いたします。

多数の皆様の御参加をお待ちしております。



(昨年の有明海講座の様子)

**入場無料**

### ◇平成19年度 有明海講座実施計画

	開催日	テーマ	講師	会場
第1回	9月16日(日)	有明海の鳥	日本野鳥の会佐賀県支部	東与賀町 干潟よか公園
第2回	10月 実施予定	有明海と筑後川	国土交通省九州地方整備局 筑後川河川事務所 所長 入江 靖	未定
第3回	11月17日(土)	有明海の食文化	佐賀大学教授 武田 淳	モーゼ 佐賀 モーゼ ホール
第4回	12月22日(土)	有明海の底生生物	長崎大学教授 玉置 昭夫	アバンセ 研修室2
第5回	1月 実施予定	風景で見る有明海	NPO法人有明海ぐるりんネット 北村 和秀	未定
第6回	2月 9日(土)	有明海の潮流潮汐のメカニズム	九州大学教授 小松 利光	未定

※ 第1回有明海講座は、午前中(9時半)、第2回以降は午後の開催を予定しています。  
※ 開催テーマは予告なく変更する場合がありますので御了承ください。

## 支援会員募集の御案内

有明海再生機構では、当機構の趣旨に御賛同いただき、活動を支援して下さる支援会員(企業・団体・個人)を募集しております。  
【年会費】●企業、団体…一口 5万円 ●個人…一口 1万円  
※詳しくは、事務局までお問い合わせください。

## 平成19年度有明海再生機構の事業計画について

19年度の事業(計画)は、通常総会(19年5月19日)を開催し、次のとおり実施することとしました。

### ○19年度事業計画概要

実施時期(予定)	事業名	事業内容
年間	○研究企画委員会・分科会等の開催 ○情報発信事業	○研究企画委員会、陸域分科会、干潟分科会、生産分科会、潮流解析勉強会を開催。(4月から随時開催) ○ニューズレターの発行(4回発行予定)及び活動年報の作成等を行い情報提供する。
4月	○理事会 ○通常総会	○18年度収支決算、19年度事業計画等の議決 ○18年度収支決算、19年度事業計画等の議決
5月	○18年度事業の成果発表会	○各分科会の活動報告、公募型研究の成果報告、会員の活動報告などを行う。(5月19日開催)
6月	○シンポジウムの開催	○有明海における「貧酸素水塊」をテーマとするシンポジウムを開催。(6月30日開催)
6月～3月	○有明海再生に関する研究費助成 ○有明海データベースの構築(H18～20年の3カ年計画) ○有明海干潟・浅海域における底質の物質循環に関する調査研究(佐賀県から受託)	○有明海再生に向けた環境改善技術の開発等に関する研究を推進するために、会員である研究者や企業が実施する研究費の一部を助成する。(19年度は2件を予定) ○有明海再生に向けた研究を推進するために、有明海環境に関するデータベースを構築する。 ○干潟・浅海域の底質の物質循環機能を検討するため、泥質干潟表層データの収集を行う。
7月～12月	○再生技術開発等コンサルティング事業	○支援会員企業からの要望に対し、有明海環境改善技術等の具体的なテーマについて技術相談事業を実施する。
9月～2月	○有明海講座の開催	○有明海の自然・生態・文化・歴史・環境問題等を題材とする公開講座を開催し、広く一般県民に対して有明海の全容を伝える。(6回開催予定)
10月	○福岡都市圏補助金事業	○福岡都市圏に対して、講演会を開催するなどして、筑後川流域と有明海との関係、有明海の現状、再生への取り組みなどをアピールする。
11月～1月	○国内干潟との比較研究	○東京湾、伊勢湾などの干潟との比較研究を行う。

### 有明海(7～9月) イベント情報

<b>■ムツゴロウ王国夏祭り</b> ▲8月1日(水) ▲小城市芦刈町ムツゴロウ公園 ▲郷土芸能・打上花火 ○ムツゴロウ王国フォーラム 080-1706-5537	<b>■おしまさんまいり</b> ▲8月1日(水) ▲沖の島 ▲有明海の沖の島に大漁・豊作祈願の漁船が終結 ○七浦公民館 0954-62-8325	<b>■精霊流し</b> ▲8月15日(水) ▲久保田町嘉瀬川 ▲河川敷みどり橋 ▲精霊流し・花火大会 ○久保田町商工会 0952-68-2017	<b>■有明海クリーンアップ活動</b> ▲8月22日(水) ▲有明海沿岸 ▲有明海沿岸清掃活動 ○佐賀県有明海再生課 0952-25-7349
--	--	---	---

## 平成18年度成果発表会レポート

5月19日に平成18年度の事業成果を報告する「成果発表会」を佐賀市増田会館パル21にて開催しました。

当日は県内外から大学、企業の研究者や漁業者、一般県民の皆様や行政関係者など約110名の方々に御参加いただくことができました。

成果発表会の主な内容は次のとおりです。



### 【第1部:平成18年度有明海再生機構の事業概要報告】

事務局から18年度の全般的な事業概要の報告を行いました。

### 【第2部:分科会報告】

有明海再生機構が設置している「陸域」、「干潟」、「生産」の3つの分科会から、活動内容の報告がありました。

<陸域分科会>有明海流総及び有明海・八代海総合調査評価委員会の結果等を踏まえて、陸域で取り組むべき課題の検討状況が報告されました。

<干潟分科会>平成17、18年度と実施している「干潟・浅海域における底質の物質循環に関する研究」の18年度調査結果について報告がありました。干潟分科会では19年度も引き続き調査研究を行う予定としております。

<生産分科会>事務局より生産目標の検討状況報告と今後の予定、昨年度実施した「有明海漁業者ヒアリング調査」の概要が報告されました。その後、流況、底質・干潟、水質など専門の研究者等と、有明海の各地区の漁業者との意見交換会が行われました。



### ○漁業者からの主な意見

- 流れが弱くなり漁獲高が減少しつつある。流速が元に戻れば有明海の再生も出来るのではないかと。
- 筑後大堰ができてから、泥が溜まりやすく浚渫をしないと出漁できない状況にある。
- 人間と自然との共存を考えた上で水の確保などに配慮してもらいたい。
- アサリ、タイラギ、アゲマキなどが非常に少なくなった。
- 透明度が増して小潮時沖合は外海水と同じように真っ青に澄む。

### ○研究者からの主な意見

- 漁業者の意見と同意するところもあれば、科学的立場から説明が出来ない部分がある。何らかの対策を立てる場合、費用対効果を重視し合理的方法による順応的対応が必要。
- 植物プランクトンを食べる貝類を増やし、透明度を下げることで赤潮を減らし、有機物を減らすことによって貧酸素を改善することができる。

### 【第3部:自主事業報告】

事務局より韓国干潟調査報告の後、有明海再生に係る研究費等助成事業の研究報告がありました。

No	研究等助成事業の名称	研究報告者(※誌上報告)
1	DBF海洋レーダを用いた諫早湾湾口部の表層流動に関する調査	多田彰秀(長崎大学)
2	干潟打ち水によるアサリ等二枚貝の生産力増強効果に関する調査	田中亮三(株東京久栄)
3	有明海海中の超微量金属元素の濃度の変化がもたらすプランクトン発生とノリの生育に及ぼす影響	※田端正明(佐賀大学)

半日間の成果発表会は、多数の皆様にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。また、テレビニュースや新聞にも取り上げられ、有明海問題に対する関心の高さを感じました。